



円、対ドルで150円台に下落 23年11月以来



13日の外国為替市場で円が対ドルで下落し、一時1ドル=150円台を付けた。150円台は2023年11月中旬以来およそ3カ月ぶり。米物価の高止まりを受けた早期利下げ観測の後退に加え、日銀がマイナス金利の解除後も低金利政策を続けるとの見方が広がり、日米金利差が拡大した状態が続くとの見方から円売り・ドル買いが膨らんでいる。

米労働省が13日に発表した1月の米消費者物価指数（CPI）は前年同月比3.1%上昇と市場予想（2.9%上昇）を上回った。米連邦準備理事会（FRB）の早期利下げ観測の後退につながり、幅広い通貨に対してドル高が進んだ。

円は1月上旬には1ドル=140円台に上昇していた。ただ米経済の力強さを受けたドル買いに加え、新しい少額投資非課税制度（NISA）における海外株投資の人気で対円のドル需要が高まったことも円相場を押し下げた。

2月8日には日銀の内田真一副総裁がマイナス金利の解除後も低金利を維持すると言及したことで、円売りが一段と広がった。日経平均株価が3万8000円に迫るなど日本の株高を受け、海外勢が為替リスクをヘッジする目的の円売りも円安につながっているとみられる。

市場では22年や23年に付けた安値の1ドル=151円90銭台が意識されている。一方で150円を超えた円安水準では政府・日銀が為替介入に動くとの警戒感もあり、利益確定目的の円買いも入りやすくなっている。



原油生産拡張停止「転換のため」

原油生産拡張停止「転換のため」

【ドバイ＝福富隼太郎】サウジアラビアのアブドルアジズ・エネルギー相は12日、国有石油会社に原油生産能力拡張の停止を指示したことについて「エネルギー転換のためだ」と説明した。市場の動向に応じて原油の生産能力を継続的に見直す考えも示した。



フェノール国内大口価格、2月4%高 4カ月ぶり上昇

合成樹脂などの原料となる工業薬品フェノールの国内大口価格が上昇した。三井化学などが決める2月分の価格は1キログラム当たり367.8円と、前月比13.8円（4%）高い。前月を上回るのは4カ月ぶり。

フェノールの国内価格は原料のベンゼンや、燃料コストとなる低硫黄C重油の価格を値決めの指標にしている。ベンゼンはENEOSの2月の国内想定価格が上昇した。一方で低硫黄C重油は下落し、値上げ幅は圧縮された。



水素普及へ天然ガスとの価格差支援 政府が新法閣議決定

政府は13日、水素やアンモニアを供給する企業に財政支援する新法を閣議決定した。水素と天然ガスの販売価格差を埋める補助金を創設し、普及を後押しする。今国会での成立と年内の施行を狙う。

水素などの製造時に太陽光や風力といった再生可能エネルギーを活用したり、二酸化炭素（CO2）を排出しても回収して地中に貯留する技術を導入したりして環境負荷を抑える手法を取り入れる場合に支援する。現在は水素の多くを天然ガスや石炭からつくり、大量のCO2を出している。

工場などから排出されるCO2の地中貯留に関する仕組みを定めた新法も閣議決定した。貯留可能な場所を探すため掘削する「試掘権」や「貯留権」を新設する。

政府は2050年までに温暖化ガスの排出を実質ゼロに減らす目標を掲げる。達成には水素やCO2貯留技術の普及が欠かせず、民間の参入を促すため法整備を急ぐ。



米CPI、1月3.1%上昇 利下げ観測後ずれ ドル高進行

米労働省が13日に発表した1月の消費者物価指数（CPI）は、前年同月比3.1%上昇した。伸びは前月の3.4%上昇からは鈍化したものの、主に住居費の上昇で市場予想の2.9%を上回った。ただ、米連邦準備理事会（FRB）が今年上期に利下げを開始するという観測を変える公算は小さいとみられる。

前月比も0.3%上昇した。予想は0.2%上昇だった。

変動の大きい食品とエネルギーを除くコア指数は前年同月比3.9%上昇と、伸びは12月から横ばい。前月比では0.4%上昇。12月の0.3%から加速し、昨年5月以来の大きさとなった。予想はそれぞれ3.7%上昇、0.3%上昇だった。

プリンシパル・アセット・マネジメントのチーフ・グローバル・ストラテジスト、シーマ・シャー氏は「過剰に反応し、インフレが復活しつつあるとの見方に飛びつかないことが重要だ」とし、「FRBが重視するコア個人消費支出（PCE）価格指数にとって、それほど重要でない部分の上昇が背景にあった。先行指数を踏まえると、こうした部門の価格上昇は向こう数カ月で緩和していく」と述べた。

CPIを受け、金利先物市場ではFRBがインフレ率の低下に十分な自信を持って利下げを開始する時期が6月になるとの見方が強まった。従来は4月30日-5月1日の連邦公開市場委員会（FOMC）で利下げが開始されるとの見方が優勢だった。もっと見る

外国為替市場ではドルが対円で上昇し、昨年11月以来初めて150円台に乗せた。もっと見る

<前年比の伸び、ピークから6%ポイント鈍化>

CPIの前年同月比での伸びは、2022年6月に付けたピーク（9.1%）から鈍化。イエレン財務長官は「1月のCPIの前年比での伸びは3.1%と、22年6月に付けたピークを6%ポイントも下回った」とし、インフレとの闘いに進展が見られていると指摘。「インフレを低下させるためには景気後退が必要との見方も出ていたが、景気後退は顕在化していない」と語った。

バイデン大統領は声明で、前年比での伸びの鈍化に言及すると同時に、インフレ引き下げに向け「まだやるべきことは残っている」との認識を示した。



週間原油コストの推移

	期間	原油相場		為替レート(▲は円高)		円建て原油コスト	
		ドル/バレル	前週比	ドル/円	前週比	円/ℓ	前週比
火曜日～ 月曜日	12/26～1/8	78.32	▲ 0.46	143.87	▲ 0.08	70.87	▲ 0.45
	1/9～1/15	77.93	▲ 0.39	145.96	2.09	71.54	0.67
	1/16～1/22	78.34	0.41	148.60	2.64	73.22	1.68
	1/23～1/29	81.31	2.97	149.03	0.43	76.21	2.99
	1/30～2/5	80.54	▲ 0.77	148.41	▲ 0.62	75.18	▲ 1.03
	2/6～2/12	80.17	▲ 0.37	149.56	1.15	75.41	0.23
水曜日～ 火曜日	12/27～1/9	78.12	▲ 1.12	144.15	0.28	70.82	▲ 0.88
	1/10～1/16	78.28	0.16	146.35	2.20	72.05	1.23
	1/17～1/23	78.46	0.18	149.05	2.70	73.55	1.50
	1/24～1/30	81.71	3.25	148.87	▲ 0.18	76.50	2.95
	1/31～2/6	79.97	▲ 1.74	148.67	▲ 0.20	74.77	▲ 1.73
	2/7～2/13	80.77	0.80	149.74	1.07	76.07	1.30